活 動 報 告

インターンシップ報告

ERINA は、北東アジア地域経済の発展の促進や日本と地域の協力の強化に向けて、情報を発信し、調査研究や経済交流事業に取り組んでいる。北東アジア地域経済を専門とするシンクタンクとして活動する中で、その専門的な知識やノウハウを社会に還元すべく、研究業務に従事する機会を提供するとともに、北東アジア経済に対する理解を深める目的で、大学院生をインターンとして受け入れてきた。インターンシップの受け入れに際しては、調査研究部の研究員がメンターとして指導し、研究上の相談に応じている。

2003年にこのインターンシップ事業を開始して以来、すでに数多くの日本人および外国人のインターンシップを受け入れている。新潟大学、国際大学、東京大学、島根県立大学、モントレー国際大学院、モスクワ大学など様々な場所から大学院生が ERINA に滞在し、研究業務を体験している。また、彼ら／彼女らの専門分野も、現代社会、国際関係、経済、環境、自然科学と多岐にわたる。

今冬は、モンゴルから長岡技術科学大学（新潟県長岡市）に留学しているメンドバヤル・ダンガースレン（MENDBAYAR Dangaasuren）さんとジャルガルエルデネ・ジャルガルサイハン（JARGAL-ERDENE Jargalsaikhan）さんをインターンシップとして1カ月間受け入れた。メンドバヤルさんは大学でモンゴルの運輸セクターにおける官民連携政策を中心に、ジャルガルエルデネさんは貿易に関する物流システムを中心に研究している。今回、様々な調査研究手法等を学ぶため、ERINA のインターンシップ・プログラムに応募した。メンターとなったエンクバヤル・シャクダル主任研究員の指導の下で、モンゴルの現状と見通しをそれぞれ調査研究し、その成果を ERINA で報告した。

私はモンゴルの公務員で、人材育成奨学計画（JDS）の留学生として長岡技術科学大学の大学院修士課程で環境社会基盤工学を専攻しています。

今からちょうど1年前、母国で人材育成奨学計画の選考結果を待っていました。その頃のモンゴルは新型コロナウイルス感染症パンデミックによって重苦しい状況となっていました。誰も外出することはできず、通りでは外出者がウイルスを広げないよう警察や危機管理局の職員が見張っていました。その頃はまるで時が止まっているかのようでした。僅かなウイルスが個人の生活に影響しただけではなく、世界中を変えてしまうなんて、と思いました。

3月5日に一般財団法人日本国際協力センター（JICE）から大学の面接に受かったとのメールを受け取りました。この知らせにとても驚き、夢や新生活、そして新たなチャンスに向かってさらに一歩前進することを嬉しく感じました。日本を訪れること

は小さい頃からの夢の一つでした。というのも、私が子供の頃、父が国際協力機構（JICA）主催の教育関係幹部職員のインターンシップで日本に行く機会があったのです。帰国の際に父はたくさんのお土産や日本の都市の雑誌、パンフレットを持ち帰り、私はそこに載っている写真を見て、日本が自分のいる世界とは別世界だと感じたものです。

来日初日には想像を絶する経験をしました。空港職員の方たちは私が想像していた以上に丁寧で礼儀正しく、職務の規則、法令、規範に則り、責任感を持って慎重に仕事に取り組む姿勢が伝わってきました。日本の公務員の人事制度や研修方法、行政能力は素晴らしいです。日本で数カ月を過ごしてみて、公共サービスに限らずあらゆる組織において、仕事のすみずみまで責任を持って取り組むのが基本的な姿勢だと感じました。

2月にERINAで1カ月間インターンシップを行う機会がありました。ここでのインターンシップは、研究員から貴重な知識や経験を得られる上に、実際に日本での職務条件や環境に触れる絶好の機会でした。前述のとおり、どの職員も責任を持って一生懸命業務に取り組み、互いをとても尊重して助け合っていました。

見た目は謙虚で勤勉な研究員にしか見えませんが、北東アジア経済の領域において日常業務や貴重な研究結果、論文、報告書がどれだけこの地域の国々の発展に貢献しているかと考えると、尊敬します。今回のインターンシップでは、経験豊富な研究員の方達から研究テーマについて貴重なご指導や助言、ご意見をいただき、とても感謝しています。また、国際的な職場環境で外国人と仕事をする上で非常に重要な見識を得ることもできました。

この1カ月間で嬉しかったことがもう一つあります。ERINAの事務所が日本海側で最も高く、地上125mからの展望室がある朱鷺メッセのビルにあることです。展望室から眺める景色は息をのむほど美しく、日本海、信濃川河口、北側には雪を覆った山々、新潟市とその周辺、そして佐渡島や粟島まで見渡せます。川沿いには緑地があり、新鮮な空気を楽しみながら歩道を散歩するのは本当に気持ちの良いものです。

ERINAとこの美しい新潟で、学問、仕事、生活において思い出に残る経験をすることができました。

最後に、メンターとして私の研究活動にご指導くださり、研究テーマの絞り込みに助言くださったエンクバヤル・シャクダル主任研究員には特に感謝申し上げます。そしてインターンシップの期間中に手助けし支えてくださったERINAの研究員と事務職員の皆さん、ありがとうございました。

（長岡技術科学大学
環境社会基盤工学専攻
メンドバヤル・ダンガースレン）

私の名前はジャルガルサイハン・ジャルガルエルデネです。首都ウランバートル出身のモンゴル人です。私はモンゴル税関総局国境港湾開発部の税官職員です。2021年4月に人材育成奨学計画（JDS）から奨学金を受け、今は長岡技術科学大学の大学院修士課程で環境社会基盤工学を専攻し、モンゴルの物流管理システム開発を中心に研究しています。

実は日本を訪れたのは今回が2回目です。初めて訪れたのは2017年の冬で、これが初めての海外旅行となりました。日本の自然、文化、天候、食は私の国とあまりにも違いました。そのときに訪れた東京がとても刺激的で、また日本に来たいと思いました。

通っている大学は新潟県の大都市の一つである長岡にあります。冬季にはこれまで見たことがないくらい沢山の雪が降ります。空気は新鮮で雪がきれいなので毎日リフレッシュできます。

指導教官の紹介からERINAでのインターンシップのことを知り、新潟市に来ることになりました。新潟市は日本海沿岸に位置し、少し風が強く雪はさほど無いので長岡とは少し天候が異なります。都市の環境は穏やかできれいですし、よく整備され

ており、言うなれば、うまくつくり上げられた都市です。ERINA でのインターンシップ期間中に、いかに日本人が努力家であるかということや日本の職場の雰囲気について実によく理解することができました。労働環境や日本人の真摯に仕事に向き合う姿勢、職務を100%完結する実行力、専門家としてのコミュニケーションの取り方、そして全て時間通りに行うということを実体験することができました。事務所の設備はよく整えられており、最新の電子機器や仕事に必要な備品が整っているので仕事にだけ集中することができます。私は互いに干渉しないようにパーティションで区切ったデスク環境を気に入っています。これは快適かつ生産性を高めるための設計です。

エンクバヤル・シャクダル主任研究員の下、研究テーマに関する様々な調査方法や取り組み方を学ぶことができました。私が行っている調査研究は、適切な物流システムを備えたモンゴルの国境通過地点についてで、これによって国際貿易が促進されることになります。ERINA は私の研究につながる多くの報告を行っており、発表の準備にとても役に立ちました。インターンシップの成果発表の後、ERINA の研究員が私の研究内容について貴重で有益な提案や助言をくださいました。今は自信を持って調査研究を進めていけます。

仕事と勉強の傍らに、川沿いをジョギングすることもありました。新鮮な空気に触れストレスから解放され、全身をリフレッシュすることができました。週末には日本海の海岸にまで足を延ばしました。一時的な肉体疲労によって精神疲労を忘れることができるので、仕事のストレスを発散するにはこれが一番の方法です。よく学び、よく遊べ、というように、こうした体験を通して仕事をしながらストレスの発散方法を知ることもまた大事だということが分かりました。

最後に、この1カ月にわたる新潟でのインターンシップは、多くのことを学び、実りの多い思い出となりました。エンクバヤル主任研究員と ERINA の職員の親切なご支援に感謝いたします。

（長岡技術科学大学
環境社会基盤工学専攻
ジャルガルサイハン・ジャルガルエルデネ）